

令和5年度学校評価 結果・学校関係者評価				結果		達成度（評価） A：十分達成できている B：おおむね達成できている C：やや不十分である D：不十分である		様式1（高等学校）	
学校名		佐賀県立佐賀商業高等学校定時制課程							
1 前年度 評価結果の概要		○わかる授業を目指し、生徒の意欲を高め、確かな学力を育成するために、具体的な取組みにおいて、見直し、更なる工夫をしていく必要がある。 ○生徒の主体的な取組みについては、更なるレベルアップを図る必要がある。							
2 学校教育目標		SDGsの理念のもと、持続可能でよりよい世界の実現を目指した質の高い教育を行う。各学科の特色を生かし、自治体・高等教育機関・地域の産業界等との協働・連携による実践的かつ探究的な教育活動の充実を図り、グローバルな視点でコミュニティを支える地域のリーダーを育成する。また、Society5.0時代の到来により、地域社会・国際社会に貢献できる商業人として、必要な知識と技術を習得させ、社会に必要なマナーやモラルを身に付けさせるとともに、何事も自ら考え行動できる生徒の育成を目指す。							
3 本年度の重点目標		(1) 「他者を思いやる」発言や行動ができる生徒を育成する (2) 自ら学ぶ姿勢を育み、確かな学力を育成する (3) 自分の考えをわかりやすく伝えることができる生徒を育成する (4) 地域の期待に応える魅力ある学校づくりを推進する (5) 働き方改革を推進し、教育の質の維持向上を目指す							
4 重点取組内容・成果指標				中間評価		5 最終評価			
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価	
評価項目	取組内容	成果指標 （数値目標）		進捗度 （評価）	進捗状況と見通し	達成度 （評価）	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	○基礎学力の向上	○学びの基礎診断テストの平均GTZ（学習到達ゾーン）が、昨年度より向上した生徒の割合を30%以上とする。 ○主体的で対話的な深い学びとなる授業改善を行う。	・9月を学力定着強化月間とし、国語・英語・数学の15分間の指導を毎日実施する。 ・シラバスの見直しや改善を通して、生徒が主体的にかつ深い学びができるような授業改善に取り組む。	B	・学力定着強化月間を当初予定の15分から30分に延長し、数値目標の30%以上を達成することができた。 ・伸び率が鈍化した学年もあり、課題を残す結果であった。 ・今後は、国語・数学・英語の主要3教科を中心に取組を継続していきたい。	A	・昨年度に引き続き、学びの基礎診断テストに対する数値目標を達成することができた。 ・特に新課程の生徒については、国・英・数の主要3教科を強化したカリキュラムへの見直しを行ったことによる効果がでており、基礎学力の伸び率が顕著であった。 ・今後は、旧課程の生徒の学力をいかに向上させるかが、課題である。	A	・基礎学力の伸び率が顕著であったことは、日々の取り組みの成果だと思う。 ・取り組んだ成果が出ているので良かった。 ・学力の向上は、個々に応じた対応が大変だと思うが、継続して頑張ってほしい。
	○資格取得の奨励	○検定取得に対する意欲を高め、検定の合格率80%とする。	・商業に関する科目を選択している生徒に対して検定取得への挑戦を促し、検定合格のための支援を充実させる。	B	・11/26現在5つの検定試験を実施し受験者数76名に対し合格者数45名であり、合格率59.2%であった。今回、積極的に上位の検定試験を受験した。さらに学習意欲を向上させることにより、さらに上位の資格に挑戦させ、合格者数の増加を図る。	B	・昨年度は、6回の各種検定試験を実施し受験者数46名、合格者数37名、合格率80.4%であった。今年度は積極的に上位資格に挑戦することができた。結果、7回の各種検定試験を実施し受験者数87名、合格者49名、合格率56.3%にとどまった。合格率は低かったが、来年度、再挑戦することにより上位の資格を取得することが可能となった。	B	・合格率は下がったものの、より上位の資格に挑戦する姿勢がみられてよかった。 ・上位の資格に挑戦する取り組みは、生徒の自己肯定感にもつながる。合格が叶わなかった生徒にも、取り組んだ努力を承認する手だてを講じてほしい。
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○他者を思いやることの大切さに気づく生徒を80%以上とする。	・スクールカウンセラーによる心の授業や、各種講演会を通して、思いやりの心を持つことの大切さを伝える。 ・性に関する講演を実施する。	B	ほとんどの生徒が他者を思いやりことは大切とは考えている。しかし、感情を抑えきれず心無い言葉を他者へ向けて発する事案も見受けられる。	B	他者を思いやることはできているが、甘えによる行動からか自律できない生徒もみられ、自己の行動を客観的に省みることができないでいる生徒が散見される。	B	・自己の行動を客観的にとらえることは難しいが、社会で人間関係を構築する上でも必要なことなので、4年間で少しでも身につくことを期待している。
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止等について組織的対応ができていると回答した教員を95%以上とする。	・いじめの認知・覚知に対する対応マニュアルを作成・見直しを行う。 ・いじめの対応についての研修・会議（いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等）を年間に2回以上行う。	A	・5月に第1回いじめ体罰等対策拡大委員会を行い、その中でいじめ防止の基本方針を確認した。 ・6月と11月に職員会議でいじめの対応に関して、全職員で対応の仕方を確認した。 ・いじめ覚知・認知件数は2件あった。職員による見守りを継続して行っている。また全校集会で、いじめに対する注意喚起（特に言葉遣い）を行った。	A	・いじめ覚知・認知件数は5月1件、10月に1件の合計2件だった。解消には至っておらず、職員による見守りを継続して行っている。全校集会で、いじめ防止に対する注意喚起（特に言葉遣いや言動）を行った。 ・いじめが発生した際の加害者への対応と、被害者へのフォローを明確に把握することができた。また全職員の協力を得て、場所や状況に応じて効果的に対応することができた。	A	・一つ一つの事案に向き合い、職員間の情報共有ができており、丁寧な対応ができている。 ・お互いの思いをしっかりと汲み取った指導がされていると感じている。今後もしっかりと見守ってほしい。
	◎佐賀を誇りに思う教育の充実	◎講演会実施後のアンケートで「佐賀県に誇りや愛着を感じる・どちらかというと感じる」と回答する生徒数を80%以上とする。	・本校の歴史や、佐賀の自然などについての講演を行う。	B	佐賀の自然、とくに水辺環境について長年観察されてきた講師による講演会準備を進めている。	A	◎講演会実施後のアンケートで「佐賀県に誇りや愛着を感じる・どちらかというと感じる」と回答した生徒は100%であった。	A	・素敵な実施結果が出ており、嬉しく思った。素敵な生徒が多いのかなと感じた。
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に食事は大切である」と考える生徒を70%以上とする。	・ホームルーム活動等で、給食を題材とした指導や食育講話を実施する。 ・「給食だより」「保健だより」、掲示物を活用し情報提供する。 ・担任と連携し、生徒の食習慣や生活習慣を把握する。 ・学校医、保護者、関係機関と連携し、健康教育や保健指導を実施する。	A	・健康に食事は大切であると70%以上の生徒が考えているが、様々な事情で喫食率が改善できていない生徒も散見される。 ・具体的な取り組みはほぼ実践できている。	A	・健康に食事は大切であると70%以上の生徒が考えているが、様々な事情で喫食率が改善できていない生徒も散見される。 ・具体的な取り組みはほぼ実践できている。	A	・「給食」を通しての食の大切さを伝える取り組みなどが工夫されている。 ・それぞれの生活リズム、生活習慣があるなかで、70%以上が食事は大切だと思えていることは素晴らしいことである。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間年次休暇取得日数14日以上の職員の割合55%以上とする。	・校内LAN、クラウドで情報共有を行い、業務の効率化を図る。 ・職員会議や分掌会議の時間を設定し、会議の効率化を図る。 ・学校閉庁日を設定する。 ・働き方に対する価値観の転換を図る。	A	・勤務時間終了後にできるだけ早く帰宅してもらうことができている。 ・分掌会議については、必要な場面での開催となっており、その分教材研究等に時間を費やしてもらっている。 ・夏季休業、秋季休業中に年休取得を呼びかけた。	A	・職員の時間外在校等時間の月平均は、7時間29分であり、4月から、月45時間を超える職員は0人であった。 ・分掌会議の開催は、教育相談部会以外の会議については、必要な場面のみで開催した。 ・年間年次休暇取得日数14日以上の職員の割合は60%であった。（15名のうち9名）	A	・会議を必要な場面に絞るなど、業務効率化と改善がなされていると思う。 ・限られた時間での勤務は大変だと思うが、先生方の心身に留意して業務に取り組んでいただきたい。

重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
★唯一無二の誇り 高き学校作り	★修学旅行プロジェクトⅠ・Ⅱの実施	★事後アンケートにおいて生徒満足度80%以上を目指す。	・生徒自身が行き先や日程等について調査、研究し、企画案を作成する。 ・修学旅行プランについてのプレゼンテーションを実施し、行き先を決定する。 ・修学旅行報告会を実施する。	A	・修学旅行事後アンケートで、とても良かった83%、良かった17%。普通以下0%という結果だった。生徒の満足度は高かった。 ・生徒自身で企画・調査・研究を行うことができた。 ・修学旅行プレゼンテーションではそれぞれのレベルではあったがしっかり発表できた。12月に報告会を行った。 ・2年生では各自プレゼンテーションを行った。行き先決定になる予定。	A	・修学旅行事後アンケートで、とても良かった・良かったと答えた生徒が100%で、生徒の満足度は高かった。 ・生徒自身で企画・調査・研究を行うことができた。 ・修学旅行プレゼンテーションではそれぞれのレベルではあったがしっかり発表できた。12月に報告会を行った。 ・2年生では各自プレゼンテーションを行い、行き先が決定された。	A	・2年間かけての計画、プレゼン、実行、報告のプロセスが、生徒の自信となり達成感につながったと思う。 ・企画力やプレゼン力さらに協調性ははぐくまれていると感じた。
	★生徒一人一人に応じたきめ細かな指導の実施	★この学校で学んでよかったと思える生徒の割合70%以上を目指す。	・担任と教科担当で、密に情報共有を行い、きめ細かな生徒の支援を行う。	A	・担任、教科担当者、管理職、生徒支援部と連絡を密にしながら、支援が必要な生徒に対しての対応が迅速にできた。	A	・月に1回の情報交換会で、生徒に関する情報や状況などを共有し、職員全体で対応することができた。	A	・生徒数が少ない分、情報交換を通じてより多くの目で対応していただいており、ありがたく感じている。
○学校生活への意欲向上	○キャリア教育の充実	○年度内に卒業予定者全員の進学先及び就職先を決定する。 ○進路意識向上に資する卒業生等の講演や説明会を2回以上開催する。	・担任や生徒や保護者との情報共有を密に行い、各生徒の進路目標に応じた情報収集と情報提供を行う。 ・本校卒業生や学校関係者、ハローワークなどと連携し、生徒が身近に実感できる講演、説明会を実施する。	B	・卒業予定者6名中、就職希望者5名のうち4名については内定することできた。(11/30現在)1名については、就労意識の向上に努める。 ・外部講師を招いた取り組みについて、当初計画どおり実施し、生徒アンケート結果からも概ね成果を上げることができた。	A	・卒業予定者6名中、就職内定者3名、専門学校合格者2名であり、1名については、アルバイトを継続しながら、基本的生活習慣の確立を図っていく。 ・進路支援年間計画に従って進路選択のための支援及び行事を計画どおり実施できた。併せて、全校生徒に有用な講演会等を2回追加し実施できたことは、生徒に貴重な情報提供及び進路選択に役立つことができた。来年度年間計画に追加の予定である。	A	・就職内定に向けて、一人一人に丁寧に対応されている。 ・それぞれに合った進路が決定しておりよかった。 ・講演会も2回開催されており、次につながるような取り組みだと感じた。
	○ルール・マナー、規範意識の醸成	○ルールやマナーの遵守など、規範意識が高まったと考える生徒を80%以上とする。	・みだしなみ確認を年間4回行う。 ・生徒生活アンケート年間3回行う。 ・その場に応じた言葉が及ぼす影響を伝え、他者に対して思いやりの言動ができるように全職員で指導を行う。 ・情報モラルに関する講演を行う。	B	・現在、身だしなみの確認を長期休暇明け(4月、8月、10月)に実施した。「爪が長い」や「前髪が目にかかる」生徒の改善ができた。 ・生徒生活アンケートを6月、11月に行い、職員会議で集計結果を確認した。7割の生徒が乱暴な言葉を使わないと回答したが、2割が「時々使う」、1割が「よく注意される」と回答した。 ・情報モラルに関する注意喚起を7月、12月の長期休業前に行った。生徒心得としてプリントを配布した。	A	・身だしなみチェックの4回目を長期休業明けに実施した。92%の生徒が「指導されない」、「1週間以内に改善する」ことができた。一方で、8%の生徒に対しては、ピアスや染髪などで継続して注意観察を行っている。 ・生徒生活アンケートの3回目を2月に実施した。23名中91%の生徒が乱暴な言葉を「使わない」「注意している」と回答したが、9%の生徒が「時々使う」と回答した。前回アンケートより実施時より改善がみられた。 ・10月に情報モラル講習会を実施した。各種ネットトラブルに巻きこまれないための心構えや対処法を学ぶことができた。	A	・生活アンケートには、生徒が素直に思いや考えを伝えているようで、学校環境の素晴らしさが伝わった。 ・身だしなみチェック等で、指摘事項があってもほとんどが改善されているようでよかった。
	○生徒会活動の充実	○生徒会活動での計画準備、役割分担を行い、学校行事の充実を図る。 ○校外ボランティア活動を年間2回以上実施する。	・生徒会活動の実施計画や運営方法を確認、再検討する。(特に体育祭、クラスマッチ、卒業生を送る会) ・生徒会を中心に校外清掃、献血や募金活動の校外ボランティア活動を行う。	A	・クラスマッチでは7月は「かるた・バドミントン」、12月は「自作のトランプでのカードめくり・バレーボール」と新しい内容に挑戦した。 ・体育祭、クラスマッチなどの学校行事では、生徒会を中心に計画、準備、実施した。また講演会等での片づけや謝辞等も積極的に行った。 ・10月には「SST文化コンテスト」と新しい企画を実施した。 ・後期には、全校生徒での校外清掃ボランティア、また希望者を募った献血や募金を計画している。	A	・10月から新生徒会に変わり、12月のレクレーション大会や、2月の卒業生を送る会(予餞会)などの運営や、進进行を計画的に行った。全校生徒が、楽しく参加できる学校行事になるように工夫した。 ・10月に「SST文化コンテスト」を実施したが、生徒同士で新たな特技に気づくことができ、生徒理解、生徒交流の機会になり良かった。 ・1月に生徒会有志で献血を行い、全校生徒に広げる取り組みを行った。また3月に予定していた校外清掃ボランティアは、授業に変更したため実施しないことになった。	A	・生徒会の活動が充実している。生徒主体の取り組みが多く設けられており、いろいろと工夫がみられた。 ・「SST文化コンテスト」は、仲間との新たな特技の発見や交流の機会になっているということで、良い取り組みを始められたと感じている。
○特別支援の充実	○教職員の専門性の向上と共通理解の深化	○情報交換会等や研修会の内容をを個々の生徒への対応に生かすことができたと感じる職員80%以上とする。 ○教育相談担当者会を月2回以上実施する。	・毎月の生徒情報交換会を充実させる。 ・教育相談担当者会での情報交換及び共有を充実させる。 ・生徒が職員に相談しやすい雰囲気づくりを心がける。 ・職員研修で専門性の向上を図る。	A	○多くの職員が、情報交換会や研修会で得た内容を日々の生徒への対応に生かしている。情報交換会でアドバイスやより詳しい情報を得ることもあり、試行錯誤がありながらもよりよい対応へつなげることができている。 ○教育相談担当者会は11月までに18回行い、充実した情報共有ができています。	A	○多くの職員が、情報交換会や研修会で得た内容を日々の生徒への対応に生かしている。情報交換会でアドバイスやより詳しい情報を得ることもあり、試行錯誤がありながらもよりよい対応へつなげることができている。 ○教育相談担当者会は1月までに23回行い、充実した情報共有ができています。	A	・一人一人の特性に合わせた対応が必要とされ、先生方も日々ご苦労されていると感じている。生徒が社会に出たときに少しでも身の回りの環境を心地よいものとするためにも、難しいことかもしれないが、自分の特性や配慮してほしいことを自分で伝えられるスキルを身につけることができれば良いと思う。

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育 ★・・・唯一無二の誇り高き学校づくり

5 総合評価・次年度への展望	・全体的に良好である。 ・年度末にかけての出席率の低下を防ぐ対策が必要ではないか。
----------------	--